



善導寺(福岡県久留米市)



伝 諸田賢順墓(佐賀県多久市)

賢順記念全国箏曲祭 25周年記念演奏会

新人箏曲演奏家の登竜門として名高い

「賢順記念全国箏曲祭」の箏曲コンクールが25周年を迎えるにあたり、賢順の功績をたどるとともに、これまでの優勝者による記念演奏会を開催します。

7/29(日)
14:00開演

筑紫箏の始祖・諸田賢順

室町時代末期、浄土宗大本山善導寺(福岡県久留米市)の僧であった賢順は、筑紫箏を創始したといわれています。7歳で父親と死別した賢順は、善導寺に入り僧となりました。ここで初めて「箏」と呼ばれてきた雅楽の善導寺楽や寺院歌謡を整理して、独自の演奏様式による箏伴奏の歌曲、筑紫箏を編み出しました。

賢順が創始した筑紫箏はその後、賢順の弟子・法水によって八橋検校に伝えられます。三味線の名手として大坂で名を馳せていた八橋検校は、江戸に下り、法水から学んだ筑紫箏に改革を加え、発展させて、近世箏曲の祖となりました。この音楽が、今日、私たちが聴いている生

田流や山田流の箏曲に脈々と受け継がれています。賢順はいわば箏曲の礎を築いた偉人といえましょう。

箏曲演奏家の登竜門

平成6年から開催されている「賢順記念全国箏曲祭箏曲コンクール」は、流派を越えて競い合う唯一の全国規模のコンクールとして、また、新人箏曲演奏家の登竜門としても高い評価を得、世界で活躍する多くの演奏家を輩出しています。昨年12月に行われた第24回大会では、実に北海道から沖縄まで全国各地から応募がありました。中には、何度もチャレンジャーの出場者もいるほどです。

本公演はコンクールが25周年を迎えることを記念して、これまでの優勝者による記念演奏会を行うものです。

筑紫箏

つくしこと

賢順が創始した箏曲と楽器を「筑紫箏」と呼びます。楽器には時代的な変遷があり、賢順の時代の箏は小型でした。「楽箏」(雅楽の箏)よりも全長が短く幅も狭いもので、後に生まれた「俗箏」(生田流や山田流の箏)よりも小型です。調弦と爪も、楽箏や俗箏と異なります。



伝 諸田賢順作箏
多久市郷土資料館蔵



箏曲発祥之地(善導寺境内)

多くの箏曲演奏家を輩出してきた25年間の歩みをたどりながら、賢順の功績を皆さまと確かめるとともに、生田流・山田流・古典・現代曲そして琉球箏曲にまで広がる多様な箏曲作品の数々を、今や第一線で活躍する箏曲演奏家の演奏によってお楽しみいただきます。